**立命館大学長野県校友会　第６回御朱印めぐりのご案内**

**―善光寺・大勧進・世尊院などの参拝―**

☆来年４月３日～６月２９日の８８日間、本年の開催が１年延期となった善光寺御開帳が７年ぶりに開催されます。そこで今回の御朱印めぐりは、御開帳開催の前に参拝して、「地方寺院としては破格のブランド力を誇る善光寺さん」の魅力に迫ろうと企画いたしました。多くの皆様のご参加を、心よりお待ちしております。

**☆日　程　　令和3年１0月16日（土）**

**☆集　合　　善光寺山門前（南西側）　９：５０**

**☆スケジュール（拝観・見学箇所など）**

**☆参拝・見学場所（案）**

**（１）午前中（10：00～12：00）の参拝箇所**

**①善光寺山門（寛永3年（1750）完成・重要文化財・間口20×奥行約8×高さ****20ｍ）**

　重層の入母屋造り・椹（さわら）の板を重ねた栩葺（とちぶき）、花頭窓が設けら

れるなど、禅宗様を交えた和洋建築で造られている。山門楼上めぐりの予定。

**➁善光寺本堂（宝永4年（1707）再建・国宝・間口約4×奥行約54×高さ約30ｍ）**

妻入りの檜皮葺（ひわだぶき）、単層裳腰（もこし）付き建築。国内屈指の大木造建築（1位東大寺大仏殿、2位三十三間堂、3位善光寺）で、東日本では最大級の規模。本堂内陣の参拝を予定。但し、三密を避けるためお戒壇めぐりは行わない。

**③経蔵（宝暦9年（1759）完成・重文）**

約15ｍ四方の宝形（ほうぎょう）造りで内部は石敷き。経蔵の内部の中央には八角の輪蔵があり、それには17世紀に万福寺（京都宇治）の鉄眼（てつげん）が翻刻した黄檗版一切経（仏教経典のすべてを網羅したもの）が納められる。

**④輪廻塔→**経蔵前に設けられた一対の石柱で、「南無阿弥陀仏」の六字名号が刻まれる。石柱の中央にはめこまれた輪廻車を回すと、極楽往生ができるといわれる。

**⑤善光寺日本忠霊殿・善光寺資料館（昭和54年（1979）完成）**

幕末戊辰の役から太平洋戦争に至る戦没者を祀る、日本唯一の仏式による霊廟。善光寺如来の分身を忠霊殿の本尊として安置。忠霊殿は「善光寺史料館」として、善光寺の歴史を伝える場所となっており、多数の宝物が展示されている。

**※①～⑤の三堂・資料館共通参拝券1,000円**

**※拝観・見学時間→①20分　②30分　③20分　④5分　⑤30分**

**御前中の2時間で上記①～⑤の五か所を参拝・見学予定。**

**（２）昼食（12：30～13：30）　昼食会場は選定中です。**

**（３）午後（13：50～17：00）の参拝箇所**

**⑥徳川家大奥供養塔→**徳川家光正室の本理院や春日局など、江戸初期の徳川将軍家や大奥関係者を慰霊する。

**⑦小林一茶句碑→**「春風や牛にひかれて善光寺」「開帳に逢ふや雀も親子連**」**

**⑧種田山頭火句碑→**「八重桜うつくしく南無観世音菩薩像」

「すぐそこでしたしや信濃時のかっこう」

**⑨爪彫如来堂→**板石に浮彫りされた如来像。親鸞が爪で彫ったものといわれる。

**⑩過去の御開帳で使用された大回向柱**→回向柱は、善光寺本堂の前に建立され、高さ約10m、太さ45センチ四方、重さは約3トン。

**⑪親鸞聖人像→**浄土真宗の宗祖、親鸞聖人が善光寺に参詣の折、善光寺如来に松の枝を捧げたという故事に基づいて造られる

**⑫仏足跡（石）→**釈迦の足跡を石に刻んだもの。古代インドでは仏像が造られるようになる前から、お釈迦様を表す象徴として礼拝の対象とされてきた。

**⑬徳本上人名号碑（文化13年（1816））→**徳本は紀伊國日高郡出身で、江戸時代中期の浄土宗の念仏行者。文化１３年（１８１６）春から秋に掛けて信州全域を巡錫。各地に念仏講を起こし名号碑を残している。

**⑭佐藤兄弟供養塔→**山門の左手に宝篋印塔が二基並んでいる。善光寺境内で最も古い石塔で、長野市の文化財に指定されている。

**⑮大勧進宝物館（拝観料500円）→**大勧進は天台宗大本山のひとつ。護摩堂の厄除け不動尊は日本三大不動のひとつともいわれる。善光寺に関する貴重な史料や宝物を多数所蔵する。善光寺造営図9巻（重文）、源氏物語事書１巻（重文）、金銅五鈷杵（重美）、絹本著色釈迦三尊像（県宝）ほか

**⑯地蔵菩薩坐像（銅造、享保7年（1922）造立）→**水内郡普光寺（飯綱町）の僧、法誉円信が日本各地の霊地に『法華経』を奉納する巡礼を達成したことを記念して造立。覆屋を失い露座になったことから「濡れ仏」と呼ばれる。

**⑰六地蔵→**六地蔵は宝暦9年（1759）に造立されたが、昭和17年に供出され、現在のものは昭和29年に再興されたもの。

**⑱駒返り橋→**源頼朝は焼失した善光寺を再建し「中興の祖」とよばれるが、その頼朝が善光寺に参詣した際、この石橋のくぼみに馬の蹄がはまって動けなくなり、ここから先は馬を降りて歩いて参拝したといわれる。

**⑲釈迦涅槃像（銅造、鎌倉時代、重文）→**善光寺釈迦堂世尊院にあり、同院は天台宗の塔頭の一つ。涅槃像とは釈迦が80歳で入滅するときの姿であり、日本では画像が多く彫像は珍しい。日本に現存する唯一の銅製等身の涅槃像である。

**（拝観料10人以内の団体1,000円、10人以上一人100円、堂内解説付き）**

**⑳仁王門（大正7年（1918）再建・間口約13×奥行約7×高さ約14ｍ）**

正面に仁王像、背面に三宝荒神像と三面大黒天像を安置する。像はいずれも高村光雲と米原雲海の合作。雲海の弟子で松本出身の太田南海も製作に参加。左に阿形、右に吽形の仁王像を安置するのは通例と逆だが、東大寺南大門も同様に置く。

**㉑良寛詩碑→**良寛の漢詩「再游善光寺」が刻まれている。

**㉒芭蕉句碑→**貞享５年の「更科紀行」の際の作句「月影や四門四宗もただ一つ」

※午後は少しハードスケジュールですが、特に休憩時間はとりません。屋外の見学が中心となりますのでペットボトルなどをご持参ください。また、参拝終了後お時間のある方は、立命校友の宮城俊木さんが経営されている「木の花屋　大門町店」長野市大門町515　TEL：026-252-7001に寄られて、お土産などを購入されたらいかがでしょうか。

　以上、簡単ですが、ご案内させていただきました。　　　　　　　（７９文卒）髙田　彰

**拝観終了後、現地解散**